



## ソーシャルボンド・インパクト・レポート2018

# 目次

- 3 2017年度のハイライト
- 4 IFC最高執行責任者からのごあいさつ
- 6 IFCソーシャルボンド・プログラムの概要
- 7 IFCインクルーシブ・ビジネスの概要
- 8 ソーシャルボンドにおける取り組みと受賞
- 9 ソーシャルボンドにおける地域別コミットメント及び融資実行額
- 10 ソーシャルボンドにおけるセクター別コミットメント及び融資実行額
- 12 注目プロジェクト：ネスプレッソ持続可能性イノベーション基金
- 13 注目プロジェクト：Al Majmoua
- 15 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト
- 20 IFCソーシャルボンド・プログラムのプロセス
- 21 免責条項

## IFCとは

IFCは開発途上国の民間セクターと協力し、あらゆる人々に機会をもたらす市場の創出に努めています。

世界銀行の姉妹組織であり、世界銀行グループの一員であるIFCは、途上国の民間セクターに特化した世界最大規模の国際開発金融機関です。

IFCは、自身の金融商品・サービスだけでなく世界銀行グループの他の機関が提供する金融商品・サービスを活用しながら、顧客のニーズに合わせた開発ソリューションを提供しています。

IFCは資金力、専門知識、世界中で培ってきた経験、革新的思考を駆使し、パートナーが金融、経営、政治課題を乗り越えられるよう支援しています。

IFCは顧客から、財務、インフラ、従業員のスキル、規制環境といった大きな制約に対処するための希少な資金、知識、長期的なパートナーシップを提供し、動員する機関として認識されています。

またIFCはプロジェクトのために第三者のリソースを動員する第一人者でもあります。

困難な環境に取り組む意欲と、民間からの資金調達におけるリーダーシップを備えたIFCは、自身の直接的リソースによってないうる以上の開発インパクトを実現しています。

詳細については[www.ifc.org](http://www.ifc.org)をご覧ください。

# 2017年度のハイライト

## 支援農家

2021年までに  
151,690軒から

243,367

軒に拡大

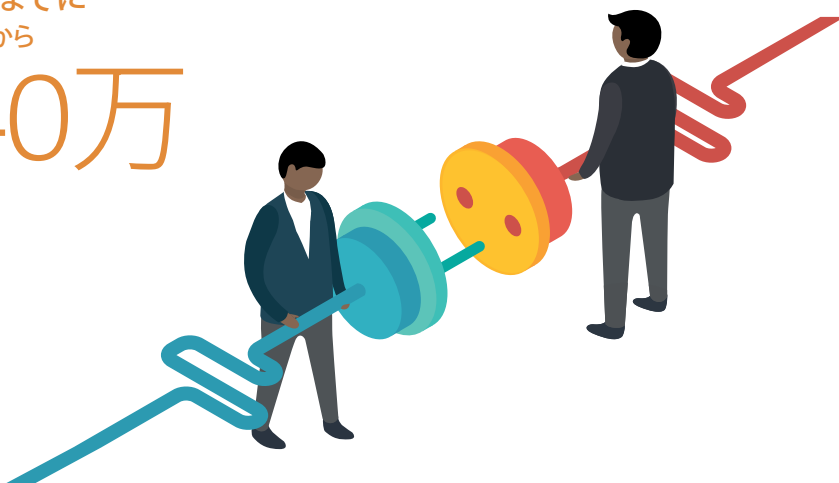


## 電力供給

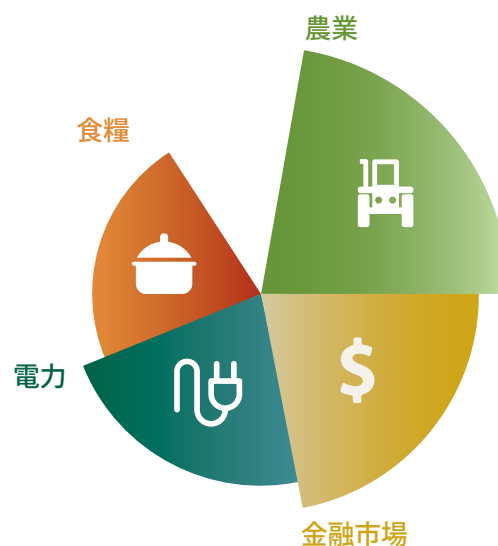
2018年までに  
340万人から

540万

人に拡大



30  
新規プロジェクト



## マイクロ・ローン提供

2022年までに  
4,114,466件から

7,442,420

件に拡大



## 女性への融資実行

2022年までに  
3,319,077件から

6,091,151

件に拡大

# IFC最高執行責任者からのごあいさつ

2017年度にコミットしたプロジェクトに関するIFCのソーシャルボンド・インパクト・レポート2018を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

今日、もしあなたが社会的・経済的平等と男女平等を推進し、国際連合が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) の実現を支援しようとお考えであれば、投資を通じてそれらを実現できます。

IFCのソーシャルボンド・プログラムは投資家に対し、途上国の人々の生活に良いインパクトを与え、同時に投資リターンを得る機会を提供します。2017年3月、5億ドルのグローバル・ベンチマーク債の起債と共にローンチしたソーシャルボンド・プログラムは、中央銀行や公的機関、年金基金、ファンド・マネージャーの関心を集め、発行額の1.4倍に上る応募がありました。以来、IFCのソーシャルボンドは発行の度に大きな反響を得ています。

民間セクターに特化した唯一の国際開発金融機関であるIFCは、その戦略上、脆弱な状態にある国や紛争の影響下にある国を含め、最も貧しく、最も困難な状況にある国の人々のために市場と機会を創出する革新的な方法を必要としています。そうした中、イニシアチブを発揮することで、厳格で透明性の高いソーシャルボンド市場の構築を後押ししたのです。IFCは2017年、1回目のソーシャルボンドを発行したことに加え、業界全体のソーシャルボンド作業部会の共同議長を務め、ソーシャルボンド原則の制定に協力しました。

“ IFCソーシャルボンドの調達資金は、新興市場の女性が経営する企業や低所得者に恩恵をもたらすプロジェクトに充当されています。 ”

IFCのソーシャルボンドによる調達資金は、新興市場の女性が経営する企業や低所得者に恩恵をもたらす民間セクターのプロジェクトに充当され、電力へのアクセスを拡大し、小規模農家の生計を助け、質の高い保健医療へのアクセスを推進することに役立てられています。

調達資金は、三人の子供を持つ起業家の母親 Iman Hamoud Al Juneid のような女性を支えています。Iman は2012年、シリア北部の紛争から逃れるため、始めたばかりの美容室を残して家族とレバノンに避難しました。IFCの顧客である Al Majmoua (レバノン開発組合 (Lebanese Development Association)) から400ドルの融資を受けた Iman は自宅のテントで美容室を開業しました。一家は夫が農場で得る乏しい収入で苦しい生活を送っていましたが、Iman は子供たちのために不可欠な食料や服を買うことができました。ソーシャルボンド・プログラムの中核には、このような心温まる物語があります。

IFCソーシャルボンドの資金供与を受けたプロジェクトは、優れた目的への投資が可能だけでなく、優れたビジネスでもあることを示しています。本レポートでご紹介するダイナミックな起業家や企業は、自身のコミュニティや全世界に深い変化をもたらしています。本レポートをお読みになり、ソーシャルボンド・プログラムへの関心を深めていただき、IFCが今後発行するソーシャルボンドへの投資をご検討いただければ幸いです。

ステファニー・ヴォン・  
フリードバーグ  
IFC最高執行責任者

2018年3月





# IFCソーシャルボンド・プログラム



# IFCソーシャルボンド・プログラムの概要

IFCは2017年3月のIFCソーシャルボンド・プログラムを立ち上げて以降、公募債及び私募債市場において4通貨建てのソーシャルボンドを8回発行しており、発行総額は6億6,700万ドルに上ります。IFCの女性起業家支援のための債券プログラムとインクルーシブ・ビジネス・ボンド・プログラムはIFCソーシャルボンド・プログラムに統合、改称しました。統合前の起債分と合わせると、現在、IFCの社会的テーマ債は総額12億3,100万ドルに上ります。

IFCが2017年3月に発行した初のソーシャルボンド（5億ドル）は、米ドル建てソーシャルボンドのグローバル・ベンチマーク債第1号として認識されています。2017年7月には、IFCは日本の大手生命保険会社である日本生命向けに、1億ドル（10年債）のソーシャルボンドを私募形式で発行し、個別の投資家ニーズに合わせた取引により、新たなインパクト投資商品を提供しました。

またリテール市場向けには、2017年7月にブラジルレアルとメキシコペソ建ての二つのトランシェからなる3年債を発行し、日本の個人投資家向けに、拡大を続ける新たな環境・社会・ガバナンス（ESG）テーマ債市場への参加機会を提供しました。

8月、IFCは米国の二つの自治体を対象に2,500万ドルの3年債ソーシャルボンドを発行しました。これはIFCが米国で発行した最初の私募形式のソーシャルボンドです。

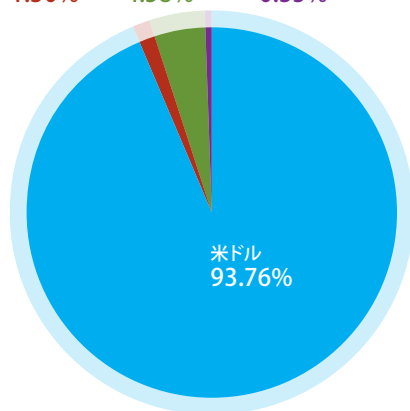
## IFCソーシャルボンドの発行

発行額 6億6,700万ドル

ソーシャルボンド発行回数 8回

## 通貨別IFCソーシャルボンド発行額

メキシコペソ 1.30%    ブラジルレアル 4.58%    豪ドル 0.35%



## 5 分間のミニ・インタビュー ジンドン・ファ

IFC副総裁兼トレジャラー



ソーシャルボンド・プログラム誕生のきっかけは何かだったのでしょうか？

IFCは新興市場の女性起業家のための機会創出を目的として、2013年に女性起業家支援のための債券プログラムを立ち上げました。2013年と2014年に2回起債を行って2億6,800万ドルを調達し、これまで16件のプロジェクトに融資を行ってきました。

これに引き続き2014年10月には、インクルーシブ・ビジネス・ボンド・プログラムを立ち上げました。バリューチェーンに低所得層を組み込んだ企業支援に特化した初めての債券です。

5回の起債で2億9,600万ドルを調達し、13件のプロジェクトを支援してきました。これら二つのプログラムをソーシャルボンド・プログラムに統合したことで、私募発行やリテール向けの発行に加え、より流動性の高いベンチマーク規模のソーシャルボンドの起債が可能となりました。

債券発行が支えるIFCプロジェクトは、新興市場の女性起業家や、より貧しいコミュニティに融資へのアクセスを提供しています。IFCはこの商品の立ち上げによって流動性を提供するだけでなく、拡大を続けるこの新たな資産クラスについて投資家に働きかけ、情報を共有する機会を作りました。

発行体としての立場から、ソーシャルボンド市場にどのように発展して欲しいと思いますか？

ソーシャルボンド市場には姉妹市場としてグリーンボンドという優れた手本があります。ソーシャルボンドの方がはるかに新しい商品ですが、これら二つのテーマ債市場にはいくつかの類似点が生まれつつあります。

IFCが国際資本市場協会（ICMA）内のソーシャルボンド作業部会で主導的役割を務める中、ICMAが2017年6月にソーシャルボンド原則を制定したことは、節目となる出来事でした。IFCは資本市場の革新的なツールをより幅広く活用することにより、新興市場におけるより効率的で自律的な融資を実行するよう努めています。

トリプルA格付けのインパクト投資商品を求める投資家にとって、IFCのソーシャルボンドは魅力的な選択肢となっています。IFCは引き続き環境・社会・ガバナンス（ESG）債市場にイノベーションと透明性をもたらし、新たな開発資金源を掘り起こして行く考えです。IFCは今後、持続可能な投資のメリットについて投資家を教育し、導くと共に、市場の成長を支援する触媒的な役割を果たしていくでしょう。

ソーシャルボンド市場は今後どうなると思いますか？

投資判断にESG基準を取り入れる投資家が増えつつある中で、ソーシャルボンドの需要は拡大すると予想しています。ソーシャルボンドは今後ますます注目を集め、堅固な資産クラスとなっていくでしょう。IFCはソーシャルボンド・プログラムを通じ、途上国の人々のために市場と機会を創出する上で、重要な役割を果たしていきたいと考えています。





# IFCインクルーシブ・ビジネスの概要

**インクルーシブ・ビジネス**とは、経済ピラミッドの下層部（BOP層）で生活する人々へ商品、サービス、所得機会へのアクセス拡大を目的とした、民間セクターによるアプローチです。これらの企業は水道、電力、携帯電話サービスと農村地域の顧客とのラスト1マイルをつなぐことが役割であり、小規模農家に訓練を提供して市場を創出し、女性起業家に融資へのアクセスを提供し、低所得の患者を治療し、低所得の生徒に教育を提供します。IFCのソーシャルボンド・プログラムはこのようなプロジェクトに融資を行っています。

IFCは2005年以降、自己勘定から160億ドル超を投じ、90ヶ国以上の幅広いセクターと地域にまたがる530件以上のインクルーシブ・ビジネスに対して長期的な融資を行ってきました。このため、IFCは国際金融機関の中でもインクルーシブ・ビジネス向けの**世界最大の投資家**となっています。昨年、IFCのインクルーシブ・ビジネスの顧客は2億2,000万人以上に達しました。

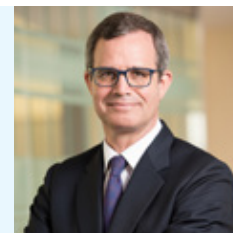
IFCは幅広いパートナーと密に連携し、啓蒙や知識の共有、インクルーシブ・ビジネスのグローバルな推進に努めています。IFCはG20による**インクルーシブ・ビジネス枠組み**の採択と「**インクルーシブ・ビジネスに関するG20リーダーからの要請**」の発表を支援したほか、インクルーシブ・ビジネス・モデルを取る企業がBOP市場でのビジネスに関する洞察を得て、商品開発やサービス提供を行い、BOP層の人々との関わりを拡大できるよう、直接支援を行う上で主導的な役割を果たしてきました。



## 5分間のミニ・インタビュー ハンス・ピーター・ランケス

副総裁

経済・民間セクター開発総局



「開発のための資金の最大化（MFD）」という新しいアプローチについて説明してください。

国際連合の持続可能な開発目標を実現し、2030年までに極度の貧困を撲滅するには年間数兆ドルもの資金が必要ですが、国際開発金融機関の資金や寄付金だけでは到底賄うことはできません。この課題に向き合うべく、IFCは政府その他のステークホルダーと協力して、民間セクターの持つ解決策を特定・活用すると同時に、公的セクターの限られた資源の利用を最適化する「開発のための資金の最大化」アプローチを採択しました。このアプローチは2017年のG20で採択されたハンプルク原則に則り、世界銀行グループの豊富な専門知識と経験を土台としています。

そうした状況の中で、ソーシャルボンドはなぜ重要なのでしょうか？

ソーシャルボンドは、持続可能な開発に関する幅広い課題に取り組むプロジェクトを支援する、魅力的な投資機会を提供します。ほんの一例ですが、現在、基礎的保健医療を受けられない人は4億人、学校に通っていない中等教育年齢の子供は2億200万人、銀行を利用できない人は20億人、電力にアクセスできない人は11億人、手頃な価格帯の適切な住宅にアクセスできない人は16億人にのぼります※1。IFCのソーシャルボンドは、女性起業家や経済ピラミッドの下層部（BOP層）に位置する低所得者に基本的な商品、サービス、そして所得機会へのアクセスを提供し、こうしたグローバルなアクセスのギャップを埋めるインクルーシブ・プロジェクトに資金を提供しています。

これらの企業は開発インパクトと収益性を両立させることにより、コミュニティと全世界に持続可能な変化をもたらしています。

**IFCが開発インパクトという新しい枠組みを導入した理由は何ですか？**

IFCの戦略は、開発インパクトを活動の中心に据えています。活動がどれほど効果をあげているかを把握するには、成果を測定することが極めて重要です。IFCは率先して成果を測定し、投資額だけでなく、直接的な開発インパクトについても法人としての目標を定めている数少ない国際金融機関の一つです。

IFCは現在、予想インパクト測定モニタリング・システム（AIMM）を使用し、コミットメント前とプロジェクトの期間中を通じて、各IFCプロジェクトの予想される開発インパクトを見積もり、測定し、モニタリングしています。本システムが評価するのは以下の2点です。

1. **プロジェクトの結果。**これにはプロジェクトが及ぼすステークホルダーへの直接的影響、経済と社会に対する間接的影響、環境に対する影響が含まれます。

2. **市場に関する成果。**プロジェクトをきっかけに市場に生じた変化を指します。プロジェクトの影響を受ける人々だけでなく、その先にある人々のつながりや金融的なつながりを通じた変化が含まれます。市場の競争力、レジリエンス、統合、包摂性、持続可能性を体系的に変えて行くことが目的です。

※1 保健に関する数値は以下を参照：世界保健機関（WHO）及び世界銀行。2015年。「保健へのユニバーサル・アクセスを追求する：第1回グローバル・モニタリング報告書（Tracking Universal Access to Health Coverage: First Global Monitoring Report）」。ジュネーブ、スイス。世界保健機関。[http://www.who.int/healthinfo/universal\\_health\\_coverage/report/2015/en/](http://www.who.int/healthinfo/universal_health_coverage/report/2015/en/)

教育に関する数値は以下を参照：世界銀行。2018年。「世界開発報告2018：開発のための教育（World Development Report 2018: Learning to Realize Education's Promise）」。ワシントンDC。世界銀行。doi:10.1596/978-1-4648-1096-1。ライセンス：クリエイティブ・コモンズ 表示 CC BY 3.0 IGO

融資に関する数値は以下を参照：Demircuc-Kunt, Asli, Leora Klapper, Dorothe Singer, Peter Van Oudheusden。2015年。「グローバル・フィンテックス・データベース2014：世界各地の金融アクセスのレベルを評価する（Measuring Financial Inclusion around the World）」。政策研究ワーキングペーパー7255、世界銀行、ワシントンDC。

電力に関する数値は以下を参照：経済協力開発機構（OECD）及び国際エネルギー機関（IEA）。2017年。「エネルギー・アクセス・アウトLOOK 2017：貧困から繁栄へ（Energy Access Outlook 2017: From Poverty to Prosperity）」。IEAパブリッシング。ライセンス：[www.iea.org/t&cs](http://www.iea.org/t&cs) [https://www.iea.org/publications/freepublications/publication/WEO2017SpecialReport\\_EnergyAccessOutlook.pdf](https://www.iea.org/publications/freepublications/publication/WEO2017SpecialReport_EnergyAccessOutlook.pdf)

住居に関する数値は以下を参照：国際連合ニュースセンター。2017年。世界ハビタット・デーに寄せた国際連合のコメント：手頃な価格帯の住宅は開発と社会的平等の鍵を握る（Affordable housing key for development and social equality, UN says on World Habitat Day）【プレスリリース】。<http://www.un.org/apps/news/story.asp?NewsID=57786&WjQTF3mos2x>

# ソーシャルボンドにおける取り組みと受賞

IFCは金融機関や国際的基準制定機関及び規制当局と緊密に協力し、世界各地で、持続可能な開発推進を目的とした透明性の高い融資に取り組んでいます。IFCは2017年度に国際資本市場協会の一員としてソーシャルボンド作業部会の共同議長を務め、本作業部会はソーシャルボンド原則を公表しました。

このイニシアチブはグローバルキャピタルの「グリーン/SRIボンド市場最優秀イノベーション (Most Valuable Innovation for the Green/SRI Bond Market)」を受賞しました。IFCはクレディ・アグリコルと共に本作業部会の共同議長を務める栄誉を得ました。

2017年6月に公表されたソーシャルボンド原則は、透明性と情報開示に関する自主的なガイドラインであり、急成長を遂げるソーシャルボンド市場の情報開示と説明責任に関する国際的な優れた取り組みとして市場から支持されています。IFCのソーシャルボンド・プログラムは、こうしたグローバル市場のベストプラクティス基準に従い、ICMAのソーシャルボンド原則を遵守しています。





# ソーシャルボンドにおける地域別コミットメント 及び融資実行額（2017年度）

2017年6月30日現在、IFCソーシャルボンドの調達資金を充当した、2017年度の**新規ソーシャルボンド適格プロジェクト**は**30件**に上ります。これらのプロジェクトへのコミットメント総額は6億2,300万ドルで、そのうち3億2,300万ドルが既に融資実行されました。

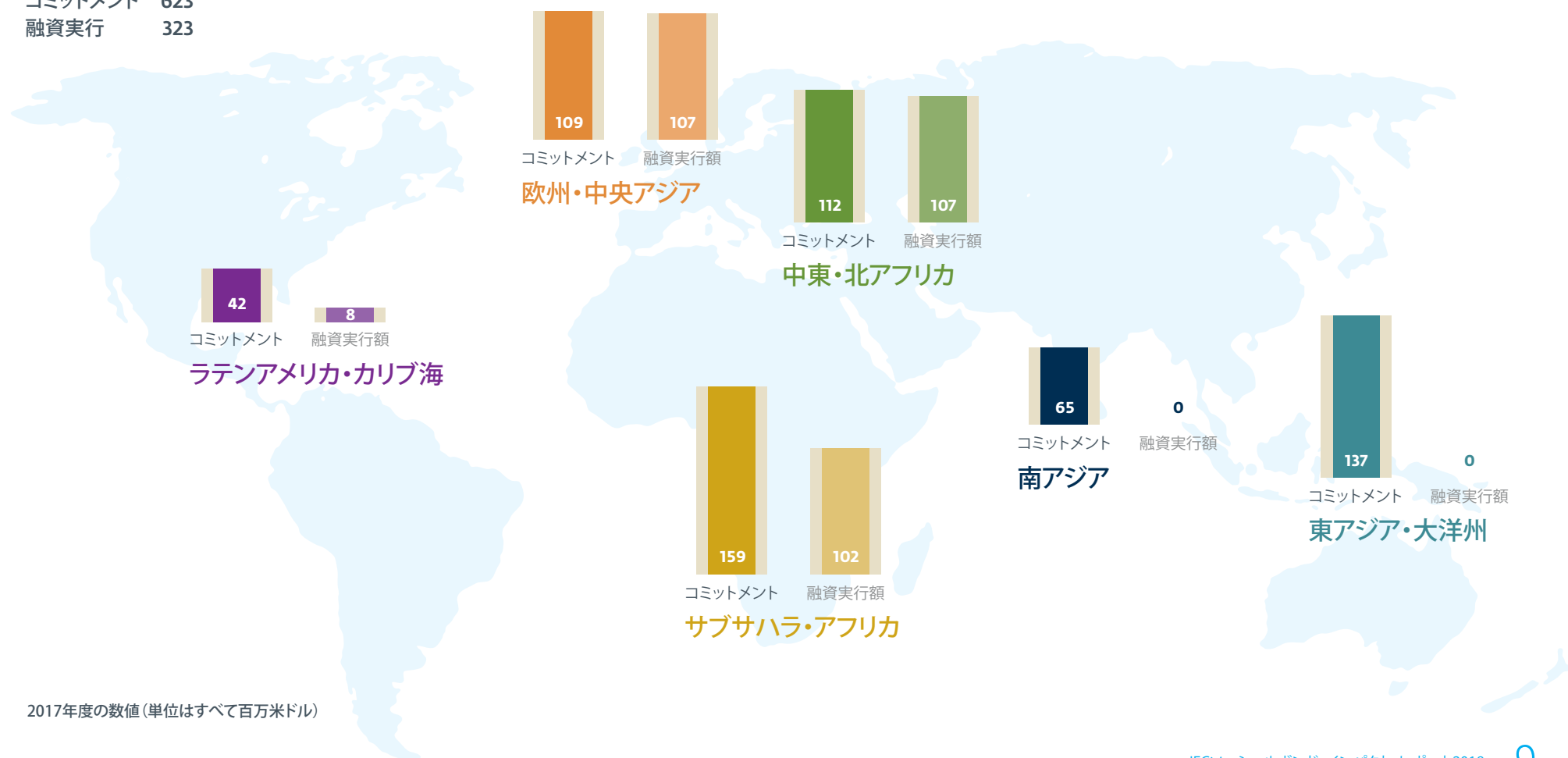
現時点での融資未実行額は**3億ドル**となります。

## 2017年度合計

百万米ドル

コミットメント **623**

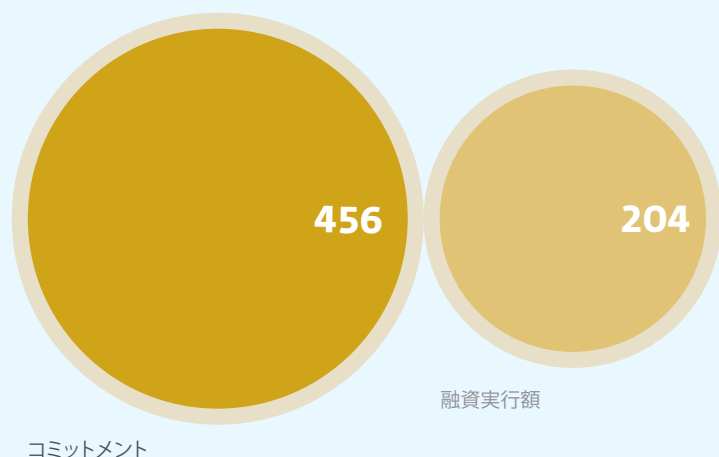
融資実行 **323**



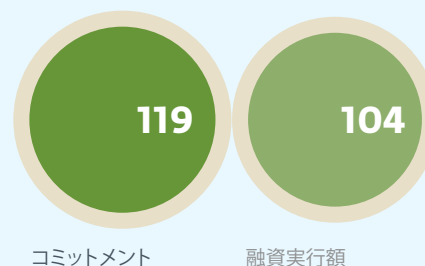
2017年度の数値(単位はすべて百万米ドル)

# ソーシャルボンドにおけるセクター別コミットメント 及び融資実行額（2017年度）

## 金融市場



## アグリビジネス



## インフラ事業



## その他



2017年度の数値(単位はすべて百万米ドル)

“ ソーシャルボンドは、持続可能な開発に関する幅広い課題に取り組むプロジェクトを支援するために、魅力的な投資機会を提供します。 ”

ハンス・ピーター・ランケス

# 注目プロジェクト





# 注目プロジェクト：ネスプレッソ持続可能性イノベーション基金

(ID: 36083)

数世紀もの間、エチオピア中央部オロミア州の青々とした大地は「コーヒーの揺りかご」と呼ばれ、同国最大の森林が広がる肥沃な土壌から野生のアラビカ種コーヒー豆の木が育っていました。しかしここ数十年の間に森林破壊が広がり、現地コミュニティは次第に土地の荒廃と気候変動の影響に悩まされるようになりました。

IFCは2016年9月、スイスのチューリッヒに本社を置く上質のコーヒー市場の大手Nestlé Nespresso SAの**ネスプレッソ持続可能性イノベーション基金 (Nespresso Sustainability Innovation Fund)**に対し、300万ドルの融資を行いました。この画期的なプロジェクトは、オロミア州と隣国ケニアのコーヒー農家及び生産者の湿式ミル事業を支援し、社会と環境の持続可能性を高めることを目的としています。世界銀行が運営する持続可能な森林のための**バイオカーボン・ファンド・イニシアティブ (BioCarbon Fund Initiative for Sustainable Forest Landscapes)**は、この他に300万ドルのグラントを供与しました。

この革新的な協同プロジェクトの目的は、小規模コーヒー農家に対する現地での訓練を通じて生産性を高め、現地の社会的・経済的状況を改善し、気候に対するレジリエンスを強めることです。農家に対して植樹と加工に関する「より環境にやさしい」アプローチを指導し、エチオピアのコーヒー産業が気候変動に耐えられるよう、後押しすることなどを目指しています。このプロジェクトは、農家によるコーヒー改植への投資を支援し、助言サービスを提供することで、コーヒーの品質と生産高を改善し、農家の所得を増やすことに貢献しています。

NespressoとIFCの長期的パートナーである非営利団体の**TechnoServe**は、オロミア地域の小規模コーヒー農家20,000軒に対し、持続可能な農業慣行を広め、コーヒーの木を直射日光から守るシェードツリーを植えるべく、技術的・金銭的支援を行っています。高品質コーヒー豆の生産性を4年以内に50%引き上げることが目標です。このような森林再生は、農場が気候変動のもたらす問題に対処できるよう備えることに役立ちます。



長期的な目標は、土地の利用を通じた森林劣化による森林破壊と温室効果ガスの排出を減らすことであり、そのため森林の管理を通じて貧困を削減し、現地の持続可能な開発を推進すると共に、炭素を大気中ではなく木の中に安全に貯蔵する必要があります。

IFCの気候関連ビジネス局長である**アルズベータ・クライン**は、こうしたプロジェクトは小規模農家の暮らしを「一変させる」影響力があり、「コーヒー農場に投資し、生産性と持続可能性を高め、グローバル・サプライチェーンの一員となるチャンスを提供するもの」と指摘します。

アグリビジネスは農村地域に所得の増加と食料安全保障をもたらすため、IFCはアグリビジネスに優先的に取り組んでいます。IFCがネスプレッソ持続可能性イノベーション基金と行っているような協力プロジェクトでは、融資と助言を組み合わせることにより、アグリビジネス・セクターが環境的に持続可能かつ社会包摂的な方法で地域のニーズに対応し、オロミア州地域の農家とその家族のような現地の人々が**より安全な生活**を送れるよう支援しています。

<http://www.technoserve.org/blog/coffee-farmers-combat-climate-change>



# 注目プロジェクト: Al Majmoua

(ID:39075)

**Rana Mansour**は2012年、内戦が勃発したばかりのシリアから夫と6人の子供と共にレバノンに避難したものの、そこでの暮らしは厳しいものでした。レバノンにいる難民の四人中三人は1日3.84ドルという貧困ラインを下回っており、その大半は1日2.87ドル未満という極度の貧困の中で暮らしています。Ranaと家族は元々シリア南部ダマスカス近郊の最大のパレスチナ難民コミュニティであるヤルムーク難民キャンプで暮らしていましたが、次第に安全ではなくなり、避難を余儀なくされました。レバノンで仕事を見つけられず、2年間シリアとの国境を行き来しながら働いていた夫はシリアで発作に見舞われ、突如帰らぬ人となりました。子供たちとベイルート南部のシャティーラ難民キャンプに残された未亡人のRanaは、**シリア料理と刺しゅう**を作り始め、年長の息子たちが近所の人々への販売を手伝うようになりました。しかしRanaには元手がなく、ビジネスを広げるにはどうすればよいかわかりませんでした。

Ranaはある日、人々の尊敬を集めている現地の非営利団体でIFCパートナーの**Al Majmoua**（アラビア語で「ザ・グループ」の意）の存在を知ります。レバノン開発組合（Lebanese Association for Development）とも呼ばれるAl Majmouaは、レバノン人が難民かを問わず、国内で最も弱い立場の人々のための持続可能な開発の推進を目的として1998年から活動を行ってきました。**Al Majmouaの発足以来、零細起業家を対象に行った融資の数は500,000件以上、その総額は7億ドルに上ります。**

起業家であるRanaは友人の女性三人とグループローンを申請し、それぞれ500ドルの融資を受けました。Ranaはその資金でビジネスを拡大し、収入の中から子供たちの学費を支払っており、「私たちの状況が早く改善することを願っています」と述べています。

IFCとAl Majmouaのパートナーシップがスタートしたのは2014年のことです。当時IFCはAl Majmouaに200万ドルの融資を行い、Al Majmouaが低所得の零細事業主やRanaのような女性起業家への融資を拡大できるよう支援しました。その後2017年には更に500万ドルの融資を行い、「零細事業」と呼ばれるマイクロビジネスや「零細資本」と呼ばれる小規模製造業の開発を支援しました。**Al Majmouaの零細事業への貸付は、難民を支援する現地レバノンの起業家が対象であり、また零細資本への融資は、地元民と難民の両方を支援するものです。**

零細資本プロジェクトの一つ、アガバニ刺しゅうバリューチェーン・プロジェクトでは、

レバノン女性がシリアの難民とワークショップを開き、手工芸品やアガバニと呼ばれるシリアの特別なスタイルの刺しゅうを学んでいます。現在同プロジェクトはAl Majmouaと協力し、女性職人から手工芸品を仕入れて安定した収入を提供する現地の非営利の手工芸品企業Artisans du Libanのための商品開発を行っています。

Al Majmouaによるこの他の投資としては、シリア人の28歳の母親**Iman Hamoud Al Juneid**への融資が挙げられます。勤勉なImanはシリアの故郷イドリブで開いていたヘアメイク・サロンを再開したいという夢を持っていました。「夫と私は文字通り一から始めようと決めたのです」と語るImanはドライヤー、ストレート・ヘアアイロン、ヘアブラシ、化粧品、基礎的なメイク道具を購入し、家族がレバノンのベッカー谷と呼んでいる自宅テントの一角に新しいサロンを開業しました。隣人や難民、友人が定期的に訪れるようになり、結婚式の花嫁には50ドル、常連客には一人15ドルでサービスを提供しています。Imanはこのお金で家族用のシーツ、新しい子供服、食料を買うことができました。「ほんのわずかなお金が夢を叶えてくれました。難民の私にお金を貸してくれる人がいるなんて思いもよりませんでした」とImanは語っています。

そこからさほど遠くない所に住むシリア人の未亡人**Zakia Khodr Al Askar**は、Al Majmouaから融資を受けてミシンを購入し、仕立屋の仕事を始めました。二人の娘たちはミシンのことを「al hasana al jariya」（アラビア語で「一貫した善行」の意）と呼んでいます。同じくレバノンに暮らすシリア難民の**Khesfe Mohammad Al Hamdan**はAl Majmouaから1,500ドルの融資を受けて牛を買い、夫と始めたばかりの酪農事業を広げ、その売上で6歳の息子を学校に通わせることができるようになりました。Khesfeは「私たちは何もかもをシリアに残して避難せざるを得ませんでした、今日新しいスタートを切れたことを誇りに思います」と述べています。

レバノンにおけるIFCのパートナー団体Al Majmouaは、創造性と進取の精神に則り、アガバニ刺しゅう事業に携わる女性からRana、Iman、Zakia、Khesfeのような難民起業家に至るまで、国内の最も弱い立場の人々の生活を向上させるという重要な役割を担っています。





# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト





# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト

以下のインパクト・アセスメント表は、IFCのソーシャルボンドの資金供与の対象となるプロジェクトによって期待される効果を示すものです。この表には2017年度にコミットしたプロジェクトが掲載されています。目標値は、プロジェクトへのコミットメント開始前に算定されており、期待される成果を示したものです。

ソーシャルボンドの資金供与の対象となるのは、新興市場の女性が経営する企業や、経済ピラミッドの下層部（BOP層）で生活する人々と事業を行うプロジェクトです。これらの企業は、農家、患者、学生、マイクロ・ローンの借り手、零細小売り事業者、消費者等を含む低所得者層に直接影響を与える存在です。以下の表では、該当する国際連合の持続可能な開発目標（SDG）の番号と共に、セクターごとにプロジェクトをまとめています<sup>※1</sup>。

## アグリビジネス

該当するSDG:



セクター	国または地域	プロジェクトID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
アグリビジネス	パキスタン	38150	Friesland Campana NV	世界有数の乳製品加工業者。本プロジェクトでは、パキスタンの最大手乳製品加工業者の一社である Engro Foods の経営権を取得し、生乳回収のサプライチェーンの効率化、小規模酪農家の利益を増やし、食の安全と食料保障を向上させる。	100.0
アグリビジネス	東アフリカ	36083	Nespresso Sustainability Innovation Fund	ネスプレッソは上質のコーヒー市場の世界的リーダーであり、持続可能な開発や環境保全、農家の生活水準向上を推進する第一人者。本プロジェクトはエチオピアとケニアの小規模コーヒー農家と生産者の湿式ミル事業を支援するもの。	3.0
アグリビジネス	ケニア	36568	Fertiplant East Africa Limited	東アフリカの主要肥料販売会社である MEA Limited の姉妹会社。本プロジェクトでは、ケニアに肥料工場を新設する。肥料事業のほか、農家に対する教育を行い、小規模農地の穀物生産高を最適化し、所得を最大化できるよう、支援サービスを提供する。	5.0
アグリビジネス	セネガル	39269	Societe Industrielle Agro-Alimentaire S.A.	主にミネラルウォーター、ジュース、超高温加工乳を扱う、セネガル拠点とする飲料メーカー。本プロジェクトでは、現地の果物や牛乳を使用したバリューチェーンを開発し、消費者が質の高い飲料を手頃な価格で入手しやすくすることで、農村の生活水準を支える。	3.3
アグリビジネス	モーリタニア	33704	Tiviski Sarl	モーリタニアを代表する乳製品企業であり、2ヶ所の主要回収センターを通じて2,000軒の酪農家から牛乳を調達している。本プロジェクトでは、既存の牛乳工場の改修、モーリタニア東部における2ヶ所の牛乳回収センターの新設、及び商品の多様化を支援する。	4.7
アグリビジネス	ケニア	38225	Tropical Heat Limited	調理用スパイス、ハーブ、スパイスを使用したスナックの主要メーカー。小規模じゃがいも農家などの現地農家から原料を調達している。本プロジェクトでは、ケニアのリムルにおける、最新設備の整った工場の建設を支援する。	3
支援を受ける農家の総軒数（ベースライン）：					151,690
支援を受ける農家の目標総軒数（2018年～2021年）：					243,367

※1 一部の適格プロジェクトについては守秘義務の理由から記載していません。一部のプロジェクトについては指標が入手できないため、総合指標には加算していません。  
上の表にはリピート顧客とのプロジェクトも含まれていますが、前回の報告との重複を避けるため、総合指標には加算していません。

# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト

## 金融市場

該当するSDG:



	セクター	国または地域	プロジェクトID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
	金融市場／ ジェンダー	セネガル	39371	Union Des Mutuelles Alliance de Credit et d'Epargne pour la Production	零細・中小企業や小規模農家に融資を提供するセネガルのマイクロファイナンス機関。本プロジェクトでは、これらの領域におけるUM-ACEPの貸付業務の拡大を支援する。	2.0
	金融市場／ ジェンダー	レバノン	39075	The Lebanese Association for Development (Al Majmoua)	零細起業家や女性をはじめとする低所得層の経済的・社会的状況を改善し、持続可能な開発を推進することを目的に設立された、レバノンを代表するマイクロファイナンス機関。顧客の約57%を女性が占める。本プロジェクトでは、難民の流入によって影響を受けたコミュニティなどにおける零細事業及び零細起業家向けの業務拡大を期待する。	5.0
	金融市場	モンテネグロ	37435	Alter Modus D.O.O.	モンテネグロの大手マイクロファイナンス融資機関。本プロジェクトでは、零細企業や小規模企業など、従来の商業銀行がサービスを提供してこなかった市場セグメントに融資へのアクセスを提供するための支援を行う。	4.5
	金融市場／ ジェンダー	パナマ	38805	Banco Delta S.A.	パナマの主要マイクロファイナンス機関であり、全国に10支店を展開する。本プロジェクトは、零細企業や小規模企業への融資を拡大し、パナマにおけるマイクロファイナンスの浸透率を高めることを目的とする。	8.0
	金融市場／ ジェンダー	バングラデシュ	39516	BRAC Bank Limited	中小企業セグメントへの融資を行う、バングラデシュで2番目に大きい民間融資機関。本プロジェクトでは、同国の女性が経営する中小企業による融資へのアクセスを拡大する。	50.0
	金融市場／ ジェンダー	インドネシア	38934	PT. Bank Tabungan Pensiunan Nasional Tbk	ファイナンシャル・インクルージョン（金融包摂）を中心に据えた事業モデルを取るインドネシアの商業銀行であり、低所得の年金生活者、零細・中小企業及び経済ピラミッドの下層部（BOP層）に位置する女性起業家に重点を置いている。本プロジェクトでは、女性の借り手、零細・中小企業及び遠隔地の顧客に対する同行の融資能力を強化する。	100.0
	金融市場／ ジェンダー	メキシコ	38960	CEGE Capital S.A.P.I. de C.V. SOFOM, E.N.R	マイクロファイナンスに特化したノンバンクの金融機関。本プロジェクトでは、メキシコの女性零細起業家に融資を行い、与信機会が限られた郊外及び農村地域の低所得層に金融サービスを提供する。	6.8
	金融市場／ ジェンダー	ミャンマー	40106	Early Dawn Microfinance Company Limited	ミャンマーの大手マイクロファイナンス機関の一つ。本プロジェクトでは、周縁化された人々のファイナンシャル・インクルージョンを支援し、同機関がミャンマー全土で都市部と農村部のより多くの顧客にサービスを提供できるよう支援する。	6.0

# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト

## 金融市場

該当するSDG:



	セクター	国または地域	プロジェクトID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
	金融市場／ジェンダー	コロンビア	38847	Banco Mundo Mujer	コロンビアにおいて資産規模で最大の民間のマイクロファイナンス機関。本プロジェクトでは、同行の零細企業向け融資ポートフォリオ拡大をサポートし、新たな起業家をコロンビアのフォーマルな金融セクターに組み込むことを支援する。	27.2
	金融市場	トルコ	38428	Sekerbank T.A.S.	「コミュニティ・バンキング」をミッションとして掲げ、多角経営を行うトルコの銀行。主に零細・中小企業セグメントへの融資を行う。本プロジェクトでは、銀行サービスを十分に受けられていない農業セクターや国境地域を含め、国内の零細・中小企業による融資へのアクセスを拡大する。	58.0
	金融市場／ジェンダー	ケニア	38419	Equity Bank Kenya Limited	特に銀行サービスを十分に受けられていない層に焦点を当てたケニアの商業銀行。従来型の店舗に加え、金融サービスへのアクセスを拡大するため、デジタル・バンキング及びモバイル・バンキング・サービス、ATM、エージェンシー・バンキング、キャッシュバック・サービス及びポイント・オブ・サービス (POS) を含む複数のデリバリー・チャンネルを展開している。本プロジェクトでは、同行の資金調達源を多様化し、中小企業及び女性起業家への貸付拡大を支援する。	82.5
	金融市場／ジェンダー	ヨルダン川西岸・ガザ地区	35149	Palestine For Credit and Development (Faten)	35の支店を持つ、ヨルダン川西岸・ガザ地区で最大のマイクロファイナンス機関。本プロジェクトでは、同機関の零細・中小企業ポートフォリオを支援すると共に、低・中所得層のパレスチナ人への融資を拡大することが期待される。	2.5
	金融市場／ジェンダー	ミャンマー	40103	Fullerton Finance Myanmar Company Limited	2013年に設立されたミャンマーのマイクロファイナンス機関。本プロジェクトでは、周縁化された人々のファイナンシャル・インクルージョンを支援し、同機関がミャンマー全土で都市部と農村部のより多くの顧客にサービスを提供できるよう支援する。	6.0
	金融市場	カンボジア	39167	Hattha Kaksekar Limited	カンボジアのマイクロファイナンス機関。本プロジェクトでは、零細起業家がより融資へアクセスしやすくなり、より多くの農村世帯が貯金やモバイル・バンキングといったフォーマルな金融サービスを利用できるよう支援する。	5.0
	金融市場／保健医療	ケニア	37873	The Medical Credit Fund	サービスを十分に受けられていないサブサハラ・アフリカの人々による、質の高い保健医療へのアクセス改善を役割とする金融・技術支援ビークル。本プロジェクトでは、より多くの中小保健医療機関にサービスを提供できるよう、同組織の活動拡大を支援する。	2.5
	金融市場／ジェンダー	カザフスタン	35747	Microfinance Organization KMF LLC	カザフスタンの主要マイクロファイナンス機関 (旧 KazMicroFinance LLC)。広範なネットワークを活かし、農村地域に深く入り込んでいる。本プロジェクトでは、女性起業家を含む零細・小規模企業顧客への新商品の提供を通じて同機関の成長を支援する。	44.0



# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト

## 金融市場

該当するSDG:



セクター	国または地域	プロジェクト ID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
 金融市場／ ジェンダー	コソボ	39206	Kreditimi Rural I Kosoves LLC	コソボを代表する、農業及び農産物加工業を中心とした零細・小規模企業向けの融資機関。本プロジェクトにより、一般的に従来型の商業銀行による銀行サービスを十分に受けられていない農村部や郊外の零細・小規模企業と個人に対する融資の拡大を目指す。	2.1
 金融市場／ ジェンダー	インドネシア	38586	PT. Radana Bhaskara Finance Tbk	インドネシアにおいてマイクロローンを中心に扱うノンバンクの金融機関。本プロジェクトでは、提供商品を零細・中小企業を含む中・低所得層の顧客を対象とした多目的ローン、運転資金及び投資資金へと広げられるよう支援する。ソーシャルボンドによる調達資金は、i) 零細・中小企業向け融資、ii) 生産目的での個人に対する融資、iii) 住宅改修資金、iv) 学生ローン、及び v) 女性向け融資に活用される。	20.0
 金融市場／ ジェンダー	インド	39454	RGVN Microfinance Limited	ファイナンシャル・インクルージョンが最も遅れているインド北東部に焦点を当てたマイクロファイナンス機関。本プロジェクトにより、フォーマルな資金調達源へのアクセスを全く、またはほとんど持たない借り手へのマイクロファイナンスの拡大を支援する。	15.0
 金融市場／ ジェンダー	レバノン	38049	Vitas SAL	金融システムによるサービスを十分に受けられていないセグメントと地域を対象とした、レバノンの主要マイクロファイナンス機関。顧客基盤の42%以上を女性が占める。本プロジェクトでは、レバノンの零細起業家と低所得者による融資へのアクセス拡大を目指す。	4.0
		マイクロ・ローンの総件数（ベースライン）：			4,114,466
		マイクロ・ローンの目標総件数（2019年～2022年）：			7,442,420
		女性が経営する零細・中小企業向け融資の総件数（ベースライン）：			3,319,077
		女性が経営する零細・中小企業向け融資の目標総件数（2019年～2022年）：			6,091,151

# 2017年度にコミットしたソーシャルボンド適格プロジェクト

## インフラ事業

該当するSDG:



セクター	国または地域	プロジェクト ID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
電力	ウガンダ	38598	Umeme Ltd. (Umeme)	主に準都市部の顧客に電力を供給するウガンダの配電企業。本プロジェクトでは、電力へのアクセスを拡大し、より多くの世帯を電力供給網につなぎ、エンドユーザーのための全体的なサービスの質を高めることを支援する。  顧客数（ベースライン）：340 万 目標顧客数（2018 年）：540 万	20.0

## その他

該当するSDG:



セクター	国または地域	プロジェクト ID	組織名	概要	適格融資コミットメント (百万米ドル)
食糧	ケニア	37870	Insta Products Limited	調理不要の治療食や、ピーナッツペーストをベースにした急性栄養失調患者用の高カロリー食品を製造する大手メーカー。同社の RUTF 製品は、救援団体によって、紛争の影響下にある地域やその他の非常事態地域の人々に対する支給品として利用されている。本プロジェクトでは、同社の RUTF 生産能力の拡大を支援する。	3.5
食糧	ナイジェリア	37143	Promasidor Nigeria Limited	目まぐるしく変化する消費財の食品加工会社。本プロジェクトでは、ナイジェリアの経済ピラミッドの下層部（BOP 層）に位置する消費者が、高品質でより手頃な価格の、栄養価の高い食品を手しやすくすることで、食料栄養状態の改善を目指す。	25.0

# IFCソーシャルボンド・プログラムのプロセス

## 調達資金の使途

ソーシャルボンド発行による正味調達資金は、ソーシャルボンド適格プロジェクトを支援するために使用されます。

適格プロジェクトとは、以下のいずれかの形でIFCが部分的または全面的に資金供与するプロジェクトのことです。

- 1) 金融仲介機関への融資。ただし、IFCの融資による調達資金の使途は、女性が経営する企業<sup>※1</sup>へのオン・レンディング（転貸）が要件。または、
- 2) 「経済ピラミッドの下層部（BOP層）」（定義：1日当たりの所得が8ドル相当未満<sup>※2</sup>または生活必需品やサービスへの十分なアクセスを持たない人々）をサプライヤー、流通業者、または消費者と位置づけ、自社の主力事業の一部としてバリューチェーンに組み込んだ企業への融資。ただし、その事業モデルがビジネスとして成立し、規模の拡大が可能であることが要件。

適格プロジェクトの例としては、以下への投資が挙げられます<sup>※3</sup>。

- ・小規模農家から直接供給を受ける企業
- ・低所得世帯が利用しやすい電力、ガス、水道等の生活インフラ企業
- ・低所得層が利用しやすい保健医療・教育サービスまたは住宅を提供する企業
- ・低所得層向けの商品やサービスを提供する企業
- ・低所得層を含む市場における通信や決済手段を提供する企業

## プロジェクトの評価と選定

ソーシャルボンド適格プロジェクトは、精査されたIFCの融資ポートフォリオから選定されます。エクイティ投資及び保証はソーシャルボンドの資金供与対象外です。

適格プロジェクトはIFCの投資プロセスに従い、IFCの持続可能性枠組みに準拠して実施されています。IFCの持続可能性枠組みには、パフォーマンス基準、世界銀行グループの環境・衛生・安全（EHS）ガイドライン、IFCのコーポレートガバナンス枠組み、IFCの情報アクセスに関する方針（AIP）に基づく情報開示要件等が含まれます。

いずれのプロジェクトも厳格なESGデューデリジェンスの手続きを経ており、継続的なモニタリング及び監督対象となります。

## 調達資金の管理

ソーシャルボンドによるすべての調達資金は、指定されたソーシャルボンド現金勘定に移され、適格プロジェクトへの融資を実行するまで、IFCの保守的な流動性方針に従って運用されます。

適格プロジェクトへの融資実行要請は、IFCが定めた方針と手順に従って行われ、多くの場合、プロジェクトの進捗状況に応じ、何度かに分けて要請が行われます。

IFCはスタンダード&プアーズ及びムーディーズの格付けで、トリプルAを取得しています。ソーシャルボンドの元利金の支払いは厳格にIFCの信用力に基づいており、IFCが実施する融資案件に直接の影響を受けるものではありません。

## 報告

IFCソーシャルボンド・インパクト・レポートは、ベスト・プラクティス及び透明性と情報開示に関する自主的な指針であるソーシャルボンド原則に則っています。

IFCは、報告に関するベスト・プラクティス及び透明性と情報開示に関する自主的な指針であるソーシャルボンド・ガイダンスに則って報告を行っています。

本レポートには、守秘義務を考慮した上で、ソーシャルボンド調達資金からの融資を受けたプロジェクト一覧、各プロジェクトの概略、融資額、及び期待されるインパクトを記載しています。本レポートには、ソーシャルボンドの融資対象となるプロジェクトのみを記載しています。IFCが投融資する全プロジェクトに関する情報は<http://www.ifc.org/projects>よりご覧いただけます。

IFCの活動に関する情報開示については、AIPに準拠して実施しています。AIPは、定期的または要求に応じて一般公開される情報の範囲に関するIFCの方針を定めたものです。方針の全文は[www.ifc.org/aip](http://www.ifc.org/aip)でご確認いただけます。

※1 ここで、女性が経営する企業とは (a) 女性（単独または複数）が少なくとも51%を保有し、(b) 女性（単独または複数）が少なくとも20%の持分権を保有し、少なくとも一つの上級経営幹部職（最高経営責任者、最高執行責任者、会長、副会長等）に女性が就いており、かつ取締役会設置会社においては議席の30%以上を女性が占めている企業を指します。

※2 1日当たりの所得8ドルの基準値は購買力平価（PPP）で換算したものです。PPP換算は、異なる国の相対的購買力が均等化するように実質値を調整するものです。

※3 上記の適格プロジェクトはあくまでも例として示しているものであり、これらの条件を満たすプロジェクトであっても、債券の残存期間を通じたIFCによる融資を保証するものではありません。



# 免責条項

本レポートは情報提供のみを目的として作成され、本レポートに含まれる情報は要約されたもの、または不完全なものである場合があります。IFCは、本レポートに含まれる情報の正確性や完全性に関して、いかなる保証及び表明も行うものではありません。また、IFCはこれらの情報を更新する義務を一切負いません。

本レポートは目論見書ではなく、IFCが発行するいかなる債券についても評価基準を提供するものではありません。また、本レポート内に記述のあるいかなる商品やサービスについて予約または購入を勧誘または提供するものではありません。いかなる状況においても、IFCまたはその関係機関は、本レポートの情報の使用に起因するいかなる損失、損害、負債、費用に対しても責任を負いません。これには直接的損害、間接的損害、特別損害、派生的損害を含み、それらに限らず、たとえそのような損害の可能性についてIFCが報告を受けていた場合を含め、いかなる状況においても、IFC及びIFCの関係機関は責任を負いません。

IFCに関するより詳しい情報は、IFCのウェブサイト [www.ifc.org/investors](http://www.ifc.org/investors) より、最新版「インフォメーション・ステートメント」、財務諸表、その他関連情報を参照してください。

アイコンはFreepik ([www.flaticon.com](http://www.flaticon.com)) により作成されています。

IFC Investor Relations  
International Finance Corporation  
2121 Pennsylvania Avenue NW  
Washington, D.C. 20433

Email: [investors@ifc.org](mailto:investors@ifc.org)  
Twitter: @IFC\_Investors

[ifc.org/investors](http://ifc.org/investors)

2018年3月